

9 あいちのおいたち

あゆみ

原始・古代

愛知に人々の営みが認められるのは旧石器時代からです。縄文時代には豊かな海の幸を背景に日本有数の貝塚が形成され、弥生時代には稲作が始まり、各地に多数の集落が営まれました。古墳時代にはヤマト王権と東国を結ぶ交通の要として発達し、東海地方最大の前方後円墳である断夫山古墳が築造されました。奈良・平安時代には良質な陶土に恵まれて焼き物の生産が発達し、日本で初めて釉薬をかけた陶器が生産されました。



断夫山古墳
(名古屋市熱田区)

中世・近世



長篠合戦場跡
(新城市)

鎌倉時代には、熱田大宮司の孫にあたる源頼朝が幕府を開きました。室町時代には、三河出身の足利一門である一色氏・細川氏・吉良氏が幕府成立の原動力になり、三管領の一つ斯波氏が尾張国の守護となりました。戦国時代には、尾張国守護代家の家老職出身の織田信長により天下統一が進められました。桶狭間の戦い・長篠の戦いでは信長の革新性がいかに発揮され、その後、豊臣秀吉・徳川家康と愛知（尾張・三河）から天下人が世に送られました。

江戸時代には、尾張は御三家の一つ尾張徳川家が治める尾張藩の地、三河は徳川氏発祥の地であったため、愛知は幕府にとって重要な意味を持ちました。江戸と上方を結ぶ陸路・水路の要所となり、豊かな土地にも恵まれ、産業・文化ともに栄えました。



岡崎城
(家康の生誕地)

近代

東海道本線・中央本線の開通、名古屋港の整備、明治用水の通水などの社会基盤づくりが進み、織物・陶磁器・瓦などの生産や、野菜栽培・養鶏などが盛んになり、愛知の農業は、日本の農業をリードしました。「人生劇場」の尾崎士郎、日本画の川合玉堂らを輩出し、舞踊・茶道・華道も広く行われました。

現代



愛知芸術文化センター

名古屋市などが空襲の被害を受けましたが、戦災復興は積極的に進められました。その後、伊勢湾台風の被災を乗り越え、愛知用水の通水、東海道新幹線の開業、東名・名神高速道路の開通などの社会基盤が着実に整備されました。現在は屈指の農業生産県・全国一の工業生産県として日本の産業発展をリードしています。平成4(1992)年に総合的な芸術文化の拠点として愛知芸術文化センターがオープンし、平成17(2005)年に、2005年日本国際博覧会(愛知万博)の開催、中部国際空港(セントレア)の開港の二大事業の成功後、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)や持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」、世界最大の女子マラソン「名古屋ウィメンズマラソン」の開催、さらに平成28(2016)年には「第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)」の開催が決定しました。また、平成29(2017)年には、県営名古屋空港に「あいち航空ミュージアム」がオープンするなど、力強く飛躍し続けています。令和元(2019)年には、「ラグビーワールドカップ2019日本大会」が全国12会場の一つとして豊田スタジアムで開催されました。また、同年11月には、G20愛知・名古屋外務大臣会合が開催されました。



中部国際空港
(セントレア)

沿革

律令体制以前は、尾張(木曾川・庄内川地方)、三河(西三河の矢作川地方)、穂(東三河の豊川地方)に分かれていましたが、律令制下で尾張・三河の2国となり江戸時代まで続きました。明治4(1871)年の廃藩置県で12県が置かれた後、尾張(知多郡を除く)は名古屋県、三河と尾張の知多郡は額田県となりました。その後、名古屋県は愛知県と改められ、額田県を廃して愛知県の管轄に移し、尾張・三河は愛知県として統合されました。当時は2,900を超える町村がありましたが、現在は54市町村(38市14町2村)となっています。

あいちの地名の由来

万葉集巻三の高市黒人の歌「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市潟 潮干にけらし鶴鳴き渡る」に詠まれている「年魚市潟」の「あゆち」が「あいち」に転じたと言われています。廃藩置県後、県庁が愛知郡の名古屋城内に置かれたところから県名に採用されました。

愛知県庁舎の歴史

明治5（1872）年11月27日に誕生した愛知県の庁舎は、名古屋城内に置かれました。その後、明治7（1874）年に古渡町の東本願寺別院、明治10（1877）年に南久屋町、明治33（1900）年に南武平町と現名古屋市内を転々とし、昭和10（1935）年10月に現在の本庁舎の建設が着工され、昭和13（1938）年3月22日に完成しました。

昭和39（1964）年6月に西庁舎、昭和45（1970）年7月に愛知県警察本部庁舎、昭和50（1975）年5月に議会議事堂、昭和60（1985）年12月に自治センター、平成6（1994）年3月に愛知県警察本部北館が完成し、現在に至っています。

平成26（2014）年12月10日、本庁舎は、隣接する名古屋市役所本庁舎とともに、国の重要文化財に指定されました。



愛知県庁本庁舎

略 年 表

明 治		新東京国際空港（成田空港）開港	
5(1872)年	愛知県誕生	53(1978)	新東京国際空港（成田空港）開港
12(1879)	最初の県議会議員選挙	54(1979)	愛知で第30回全国植樹祭開催
19(1886)	鉄道開通（武豊～熱田間）	60(1985)	国際科学技術博覧会（「科学万博一つくば'85」）開催
22(1889)	大日本帝国憲法発布		県自治センター竣工
24(1891)	濃尾大地震 県内死者2,459人	63(1988)	愛知環状鉄道開業（岡崎～高蔵寺間）
25(1892)	県人口150万人をこえる		平 成
27(1894)	日清戦争勃発	元(1989)年	消費税導入（3%）
31(1898)	名古屋市内に電話開通 加入者200人		名古屋で世界デザイン博覧会開催
37(1904)	日露戦争勃発	2(1990)	東西ドイツ統一
45(1912)	国際オリンピック初参加	3(1991)	愛知で第11回全国豊かな海づくり大会開催
	大 正	4(1992)	愛知芸術文化センター（栄地区）開館
3(1914)年	第1次世界大戦勃発	6(1994)	愛知で第49回国民体育大会（わかしゃち国体）開催
9(1920)	第1回国勢調査 人口208万9,762人		県警察本部北館竣工
12(1923)	関東大震災発生	7(1995)	阪神・淡路大震災発生
	昭 和		地下鉄サリン事件
8(1933)年	名古屋市役所（現本庁舎）完成	10(1998)	長野で冬季オリンピック開催
13(1938)	県庁（現本庁舎）完成	11(1999)	県人口700万人をこえる
14(1939)	第2次世界大戦勃発	12(2000)	東海地方で記録的な豪雨
20(1945)	三河地震発生	14(2002)	県地方機関の再編
	終 戦		日韓ワールドカップ開催
21(1946)	日本国憲法発布	15(2003)	愛知で第27回全国育樹祭開催
25(1950)	愛知県章制定		上飯田連絡線開業
	愛知で第5回国民体育大会開催	16(2004)	西名古屋港線（あおなみ線）開業
29(1954)	名古屋テレビ塔完成	17(2005)	中部国際空港・県営名古屋空港開港
31(1956)	佐久間ダム完成		東部丘陵線（リニモ）開業
32(1957)	地下鉄開通（名古屋～栄町間）		愛知で2005年日本国際博覧会（愛知万博）開催
33(1958)	愛知県地方計画（第1次）策定	18(2006)	愛・地球博記念公園（モリコロパーク）開園
34(1959)	伊勢湾台風 県内死者3,168人	22(2010)	あいちトリエンナーレ初開催
	名古屋城天守閣再建		愛知で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）開催
36(1961)	愛知用水完工	23(2011)	東日本大震災発生
39(1964)	県庁西庁舎竣工	24(2012)	名古屋ウィメンズマラソン初開催
	名神高速道路開通（一宮～神戸間）	26(2014)	愛知で持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議開催
	東海道新幹線開業（東京～新大阪間）		技能五輪・アビリンピックあいち大会2014開催
41(1966)	県立大学・県立芸術大学設置		県庁本庁舎・名古屋市役所本庁舎、国の重要文化財に指定
42(1967)	県人口500万人をこえる	27(2015)	入鹿池の世界かんがい施設遺産登録
43(1968)	豊川用水完工	28(2016)	県人口750万人をこえる
44(1969)	アポロ11号、人類初の月面着陸に成功		明治用水の世界かんがい施設遺産登録
	東名高速道路開通（東京～小牧間）	29(2017)	あいち航空ミュージアムオープン
45(1970)	大阪で日本万国博覧会開催		松原用水・牟呂用水の世界かんがい施設遺産登録
	県警察本部庁舎竣工		令 和
47(1972)	札幌で冬季オリンピック開催	元(2019)年	愛知で第70回全国植樹祭開催
	沖縄返還		ラグビーワールドカップ2019日本大会開催
48(1973)	第1次石油危機		あいち技能五輪・アビリンピック2019開催
50(1975)	県議会議事堂竣工		G20 愛知・名古屋外務大臣会合開催
	沖縄国際海洋博覧会開催		